

## 「火吹竹（ひふきだけ）と治聾（じろう）」

桜井 強

日本聾史学会事務局長・日本手話研究所運営委員

### 1. はじめに

「火吹竹」というのはどういう品なのか現地調査を行った。また、日本民間伝承に影響を与えているのか等調査し、確認しました。

### 2. 現地調査について

2007年1月27日に福岡県糸島半島の箱島神社

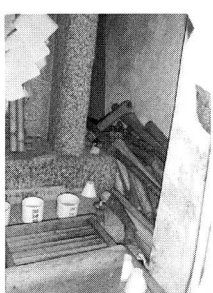
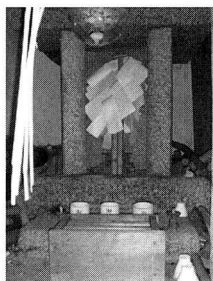
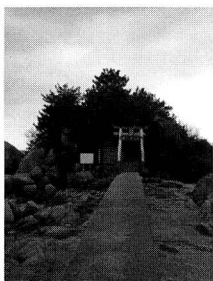
2007年7月28日に佐賀県三瀬峠の聾治し地蔵

### 3. 現地調査の結果について

2. 現地調査の共通点を探ってみて大変多くの共通点があることに判明しました。

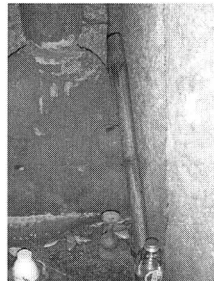
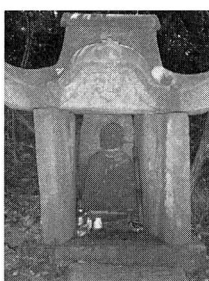
### 4. 福岡県糸島半島の箱島神社について

古来より玄界灘の海上交通の要所であった志賀島は海洋民族であった阿曇一族の拠点であり、彼らによって信奉されてきた海神が鎮座した。その祠（ほこら）の中には数本の竹が納められてあったが、火吹竹の由来は不明。



### 5. 三瀬峠の聾治し地蔵について

小さな祠があり、火吹竹1本が置かれてありました。福岡県と佐賀県の県境にある峠で「早良街道」と呼ばれていた街道。今で言うと国道263号になっている道路です。

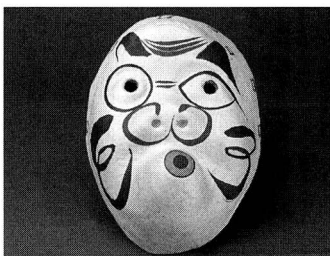


### 6. 火吹竹の由来について

インターネットでキーワード「火吹竹」という検索してみた。いくつかの説や由来の単語が出て来た。

#### 【ひよつとこ】

ひよつとこは、火吹き竹で火を吹いた表情をしていることから、「火男（ひおとこ）」が転じ「ひよつとこ」になったとされる。一説には、目が大小不釣り合いで徳利のような口をしているため、「非徳利（ひとっくり）」が転じ「ひよつとこ」になったともいわれるが、かなり無理があるように思える。火男は、東北地方の「竈神（かまどがみ）」といわれ、火男の神は「ひょうとく」とも呼ばれる。



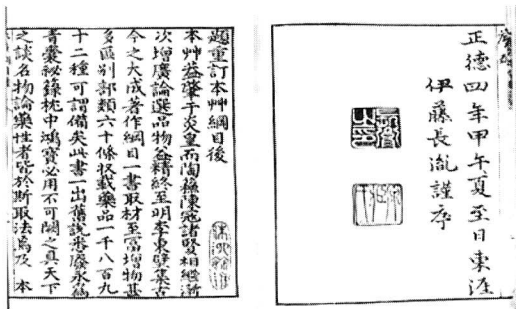
「ひよつとこ面」

## 【竈神（かまどがみ）】

かまどの神様は、単に台所や火災避けだけではなく、「家の盛衰そのものを司る」言わば、「家の守り神」と考えられた。荒神とは火神であり、かまど神である。そのため、荒神箒で他所を掃くのは忌み嫌われ、罰があたるなどのことも言われた。日本の【炭焼き長者・再婚型】にも現れている。何故、燃え盛るかまどは冥界なのか。それは燃える炎が生命を象徴しているからで、魂は冥界に入って新たな生命を得、再生すると考えられていたからである。中国のかまど神の由来伝承や、日本の【炭焼き長者・再婚型】にも現れている。日本神話の「海幸・山幸」では、山幸彦が宝石を桶の水の中に吐くと取れなくなり、それがきっかけとなって海神の娘に存在が知られ、結婚することになっている。

## 【本草綱目（ほんぞうこうもく）】

「火吹竹」による治療法が『本草綱目』由来であったとしても、ミミズの俗信自体が『本草綱目』由来であると速断することはできない。「ミミズに小便をかけると陰茎が腫れる。」という俗信があり、これに対する対処法を探した結果、中国の書物に治療法が載っていた。



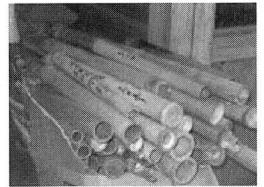
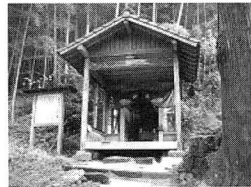
## 7. 仮説

竹と耳の治療に関わりがあるかどうか調べてみた。竹の原産地は東南アジアが代表的な産地である為、日本において竹林の造成が本格的になったのは室町時代と言われた。竹にかかわる人々は海洋民族であったと考えられ、九州地方で多くの竹細工に関わった産業である。

## 8. 考察

天正 15 年（西暦 1587 年）12 月、佐々成政の要請を受け、和仁一族の田中城攻めに参戦した柳川由布大炊助（やながわゆふおおいのすけ）は、豊後由布

氏の一族で、筑後柳川城主・立花宗茂の家人でした。騎馬大将として先頭に立ち、大手門より攻めいく中で、家来から「危のうござる！お下がりください！」と強くとがめられるが、もともと耳が不自由な大炊助には聞こえるはずもなく、城中から放たれた矢に胸を射抜かれ討死してしまっただ。その悲報を聞き、村人たちが墓を建て、代々、丁重に供養を続けてきました。その墓が「耳の神様」として現在に至っている。「耳の通りが良くなるように」との願いを込めて『火吹竹』が奉納され、耳疾の神として信仰されていました。耳の通りが良くなるように御参りをし、奉納してある「火吹き竹」を借りて帰り、耳に当たった後にそれを吹く。これを毎日続けることで、ご利益があると言われ、御願成就の暁には、新たな「火吹き竹」と一緒に奉納して、お礼参りをする。



## 9. おわりに

「耳の通りが良くなりますように」と念じつつ吹くと良くなるという信仰が絶えず、参拝者が多く訪ねられているのは自然崇拜的な民俗信仰から生まれた九州らしい国柄で何らかの信仰や伝承があったと思われま。

## 【参考文献】